



スポーツ振興くじ助成事業

## 平成26年度 九州ブロッククラブネットワークアクション2014

### 開催報告

日時： [第1日目] 平成26年11月8日（土） 13:00～17:00  
[第2日目] 平成26年11月9日（日） 8:50～12:30

会場：北九州国際会議場 メインホール他

内容：

#### [1日目]

- 分科会 「我が町の総合型地域スポーツクラブの未来を語ろう！  
～2020年をめざして、今、やるべきこと～」
- 日本体育協会からの情報提供

#### [2日目]

- 講演：「2020年をめざして、総合型クラブに果たしてほしい役割」  
文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課長 森岡裕策氏
- 分科会「2020年に向けてのクラブづくり  
～地域・社会資源を生かして課題に挑む！～」

### 【概要】

1日目のプログラムでは、九州各地の総合型クラブの実践を「世代親睦・クラブ間連携」、「収益・会員増」、「地域貢献」、「アスリート育成」、「企業・団体等連携」という5つ視点から見つめ直し、各県より事例発表クラブを選出していただきました。

各分科会では、事例発表クラブに具体的な実践を発表していただき、「どうすれば、クラブの課題を克服することができるのか」、「どうすれば、経済的な自立・自律の道を歩むことができるのか」、「どうすれば、スポーツへの追い風を総合型クラブに取り入れることができるのか」という視点で参加者との意見交流を行うことをねらいとしました。

2日目のプログラムでは、はじめに「2020年をめざして、総合型クラブに果たしてほしい役割」というテーマで文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課長森岡裕策氏よりご講演をいただき、国の総合型クラブに関わる諸施策についての情報提供をいただきました。次に、各県クラブアドバイザーを中心に「2020年に向けてのクラブづくり～地域・社会資源を生かして課題に挑む！～」というテーマの下、10ブースを開設し、各クラブが置かれている地域・社会資源を活かした課題解決策を探ることをねらいとしました。

## 【内容】

### <1日目 分科会>

各県を代表するクラブの事例発表には、他クラブの事業づくりの参考となる様々な情報が含まれており、参加者からは、「参考になった」、「地域で活かせるヒントがあった」等の意見が寄せられました。

特に、収益・会員増の分科会では、福岡県のきくがおか健康スポーツクラブより、「地域づくり＝クラブづくり」の視点が紹介され、世帯会員制の考え方、チケット制による教室参加のしくみについて情報提供がありました。また、無料教室の運営による地域づくり・公益性の考え方が会員増につながっている現状について説明がなされました。長崎県のNPO法人Will Do（ウィルドゥ）は、会員の会費管理システムや損益分岐点のシミュレーションについて説明され、クラブの教室づくりの考え方や会費の設定方法について情報提供がありました。

今回参加されたクラブには、設立準備中のクラブや設立後間もないクラブもあり、一部、事例発表クラブの情報を上手く受け止めることができないクラブもありました。反省として、様々なクラブのニーズに対応できる研修テーマを企画する必要性がありました。



### <2日目 講演>

文部科学省スポーツ・青少年局 スポーツ振興課長の森岡裕策氏より、総合型クラブの自立・継続に向けて下記の視点が紹介されました。

- ①複数クラブのネットワーク化の構築・活用
- ②中間支援組織（SC全国ネットワーク等）の活用
- ③財源確保を目的とした事業化への転換

さらに、スポーツの普及促進における貢献だけでなく、地元自治体との連携による健康増進分野での活躍、障害者スポーツの推進に果たす役割等について多面的な活躍を期待されていると激励されました。



## <2日目 分科会>

各ブース3回のセッションの中で、各クラブが抱える現状、運営上の課題等について意見交換がなされました。クラブの抱える課題として、「人」、「もの」、「金」、「場所」を挙げるクラブがほとんどでした。本会では、毎年、参加者間の意見交換はある程度できているが、意見交換のみで完結している側面があります。今後「収集した情報を各県・各クラブでどのように活かすか」、「本会を契機にクラブの何を変えて経営改善を行うか」という視点を付加し、実効性のある研修を行う必要性を感じました。さらに、九州各県のクラブが本会を踏まえ、共通の取り組みに挑むような事業提案型の研修を企画する必要性を感じました。



九州ブロッククラブネットワークアクション 2014  
実行委員長 中村 忠紀